

坪川議員（自民大志会）

令和3年2月22日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）県立高等学校の再編整備に係る地元への説明について（関連質問①）

1点目は、代表質問において、教育長は、学校関係者には1月15日の教育委員会会議の前に説明を行っているとの答弁であったが、基本計画等の説明は、いつ、誰が、どこで、誰に、どのように説明を行ってきたのか、再度伺う。

2点目は、代表質問において、生徒が減れば、教員の数も限られ、専門的教員の配置ができず、教育環境に影響が出るとの答弁であったが、1学年1学級規模の学校と、1学年3学級以下の学校の違いについて伺う。

最後に3点目は、1学年3学級以下の学校は12校あるが、なぜ安芸高校と呉昭和高等学校の2校なのかについて伺う。

（答）

まず、今回の3万人を超える署名につきましては、当然、大変重く受け止めております。

その上で、先ほどもお答え申し上げましたけれども、学校関係者の説明につきまして、両校の生徒それぞれからご支援いただいている学校運営協議会会長、PTA会長、同窓会会長にですね、1月4日から8日の間、校長を通じて説明をしたところでございます。

それから、今回なぜこの2校かというところでもございますけれども、繰り返しになりますけれども、県内の中学校第3学年の在籍者数は、生徒急増期のピークに当たる昭和63年度には、48,780人で行ってまいりましたが、令和2年度は24,561人と約半数まで減少しまして、今後も中長期的に減少が見込まれる中で、これまで中山間地域以外の地域におきましては、入学定員を減じることで対応しております。

今回の2校の生徒の募集の停止につきましては、生徒急増期に新設した高等学校でありまして、安芸高等学校のほうか、近隣にある中学校の3校の卒業者数がですね、ピーク時の1,048人から令和元年度には467名に減少いたしまして、当該中学校からの進学率も設置当初の23.4%から5.8%に減少しております。

また、呉昭和高等学校では、近隣にある中学校2校の卒業者数がピーク時の763名から、令和元年度には318名に減少し、当該中学校の進学率も

設置当初の23.7%から12.9%に減少しております。こうした中で  
すね、令和2年度の入学者選抜を見ていただきますと、過去最大の1,210名の定員割れを生じております。こういった中で早急な対応が必要となったというふうに思っております。苦渋の決断をせざるを得ないと判断したところでございます。

関係者の皆様、それから在学生の皆様にとって、本当に申し訳ない気持ちでございますけれども、今後も引き続き学校関係者の皆様に、生徒募集停止に至った経緯、その考え方、今後の生徒への支援の在り方について、説明を  
してまいりたいと考えております。

3学級規模と4学級規模の違いでございますけれども、定数で申し上げますと、3学級規模、いま安芸高等学校の3学級規模で申し上げますと、25.5人が定数となります。それから4学級規模のほうが、28.5人という形になっております。それから、ちなみに2学級規模になりますと、今16人ということが、今現状のこの配置状況というふうになっております。